

審査を終えて

近年、他のメディアと同じ地平に“写真”的熱が高まってきたように思われる。そんな状況の中で、当市民展にも一つの部門としてとり入れられたことは写真創作に関わる者として嬉しい。

今回、審査に当たって私の着眼点は、いわゆる地方のアマチュアの方がすでに取得しているタブロー性（たとえば、諸コンテストなどで評価されるなどの作品）を破った、何か同時代的な創造意識と若々しい感性、—それらが縦横に反映された結果の作品として選び出したかった。

市長賞をみごとに獲得された柴田茂さんの“MIRAGE”は、ちょうどドルトンの描く神秘的な精神世界を垣間見させるような……深い青のイメージで、画面上にある洞穴の世界へ私の視線が一直線に入っていった。写真サイズそのものは小さいが、余白（マット）のスペースも有効的な広がりがあってピュアな作品だった。議長賞の“湯の宿にて”は、歌謡曲の1フレーズも浮かんできそうな、決して対象に肉迫する力量の程は感じられないが、この映像では、誰もが日常の中で、ふとした心の“揺らぎ”をもつ、そんな気分の柔らかさを素直にして、この作者が他にもどんな秘密めいた作品作りをしているのだろうか……そんな勝手な思い込みを私にさせた。

そして教育長賞の石川聰さんの“いわき1951”は、見ようによつてはかつて記録しただけの時代に“黄ばんだ”リアリズム写真でしかない。しかし、当時の炭田地帯の様相をあえて現前させたこの作者の意志力に学びたい。写真は時を経て発揮するものだと……。また特に触れたいが、この作品の仕様が応募規定のフルサイズいっぱい使っており、作品が展示空間でどう生かされるかも良く理解できている。

佳作の18点は、応募作品全般の傾向から、[スナップ]、[ランドスケープ]、[メーキング]などに分類した中で特に際だって表現力に優れていたものを選んだ。

最後に、公募展の多様な作品の中では、独自の方法論が、どう他を圧するかによると審査を体験して感じた。単に一枚にこだわらず、コラージュ、組み写真、オブジェなど自由に発想して欲しい。この市民展が魅力ある、「写真創造」の場として羽ばたくために、改めて“若い感性”による作品作りに励んでいただきたいと思う。

1995年3月8日

審査員 鈴木 清
(写真家)

第24回

写真の部 入賞者

賞 名	題 名	氏 名	住 所
いわき市長賞	M I R A G E	柴田 茂	
いわき市議会議長賞	湯の宿にて	高萩 英男	
いわき市教育委員会 教 育 長 賞	い わ き 1951	石川 聰	
《佳 作》			
いわき商工会議所 会 頭 賞	再	葉 多 君 子	
いわき市文化団体 連絡協議会会長賞	光	吉 田 重 信	
福島県報徳社賞	葉 模 様	矢 越 忠	
美術館友の会賞	スモールビレッジの午後	高 木 サダ子	
いわき市観光協会賞	港 の 顔	中 泽 美紀子	
"	光 景	松 本 富美雄	
いわき市物産振興 連 合 会 賞	ズ リ 山 残 影	永 山 了 久	
"	E G G S	緑 川 貴 之	
いわき写真師会賞	Message By Wrapping	片 寄 正 敏	
有限会社平電子 印 刷 所 賞	忘 却	吉 川 俊 紀	
昭 文 堂 賞	葬 式	諫 佐 瞳 子	
シック プラザ賞	風 彩	関 原 昭	
大 黒 屋 ア ト ギ ャ ラ リ ー 賞	華 化 粧	蛭 田 光	
カ メ ラ の 田 中 賞	い わ き ・ お 盆 の 頃	岩 佐 辰 郎	
"	一 千 一 秒	芳 賀 一 也	
カ メ ラ の シ ミ ズ 賞	獅 子 舞	小 野 光 郎	
いわきビル設備管理 センターブル株式会社賞	浜 ・ 躍動の夜明け	小 松 旭	
常 光 サ ー ビ ス 株 式 会 社 賞	祭 日 好 晴	桑 原 高 志	

審査を終えて

写真の部の開催は2回目ということですが、実際に作品を拝見してみて、かなりバラエティに富んでいたように思います。人物や風景のほか、行事、生活、動物など、スナップ写真も含め、かなり広範囲の分野に渡っており、それぞれ個性的なとらえかたをされていました。ただ、中には作品と調和させるためか、特別な額装をした方もいて、作品より額の方が勝ってしまうようなものもありました。全体的にはなかなか見応えがあったと思います。

全国的なレベルでいうと60点といったところでしょうか。入賞作を含め30~35作品くらいは他県と比べても遜色ないレベルに達しているのですが、写真をやって間もない方との差が大きく、実力のばらつきがあるようと思われました。やはりこの会場に来て、いろいろなオリジナル作品に接し、自分の作品との比較をしたり、優れた作品が何を見て、何を切り取っているかを見ていって欲しいものです。今はシャッターを押せば何でも写ってしまう時代ですが、「うつす」というのではなく、「とる」、つまり、個性的にものを切り取ることが大切なのではないでしょうか。自分が興味をもつ題材をしっかりと見つめて自分のものにしていって欲しいと思います。

市長賞と議長賞は、決定するのが難しく、どちらがトップになってもおかしくないすばらしい作品です。市長賞の森大岳さんの作品は、動物の生きる姿、自然界の現象がテーマです。背景とのバランスも優れており、粒子はちょっと粗いのですが、見つめていると見る側にいろいろなことを想像させ、見る人によって内容が膨らんでくる作品ではないかと思います。議長賞の安濃榮一さんの作品は、水面に映る風景の模様とバランス、水鳥の位置が非常によく計算されており、良いシャッターチャンスをとらえています。色の濃度、あがりも良いと思います。教育長賞の大森房子さんの作品は、海外で取材したものですが、親子の愛情がテーマです。服装や表情、人物のまわりの空間のとりかたが良く、カメラを意識していない自然の姿が非常に色良く仕上げられており、カメラアングル、レンズの使い方も良かったと思います。

佳作の叶多君子さんの作品は、まわりのスキのバランス、水面に映る雲の形の切り取り方が実に造形的に優れ、構図もしっかりしていると思います。カメラとレンズの扱い、現像、あがりの色濃度が的確だと思います。佳作の渡邊一雄さんの作品は、対象をしっかりと見つめており、ただ切り取っただけではない、この人なりの見つめ方が伝わります。船の実在感と歴史を現在の状態を通じて、幅広い年齢層に訴えかけるような内容の深い作品です。モノクロでとらえたのが的確だったと思います。

このほか、合成写真もいくつか見受けられました。合成写真はきちんと計算された中でやっていれば良いのですが、ただなんとなく面白いから画面の中で合成してみたというのは、できるだけ避けていただきたいと思います。やるのであれば、緻密な計算の中に、自分の個性を凝縮するべきなのではないでしょうか。

第25回

写真の部 入賞者

賞 名	題 名	氏 名	住 所
いわき市長賞	生死流轉	森 大岳	
いわき市議会議長賞	潭	秋 安濃 榮一	
いわき市教育委員会教育長賞	ひととき	大森 房子	

《佳 作》

いわき商工会議所会頭賞	湖	愁 叶 多 君 子
いわき市文化団体連絡協議会会长賞	龍	骨 渡 邊 一 雄
福島県報徳社賞	華	夢 蟹 田 光
美術館友の会賞	白 い 境 界	渡 辺 啓
いわき市観光協会賞	親 子 は ね と	伏 見 重 良
"	念 仏	井 上 和 人
いわき市物産振興連合会賞	い わ き の 子 (1951・52・53・56・61)	石 川 眞
"	冬 の 精	遠 藤 紀 光
いわき写真師会賞	Live in Vietnam	中 澤 美紀子
有限会社平電子印刷所賞	転換の構成	柴崎 恒 男
昭文堂賞	午 下 り	野 川 譲
ミックープラザ賞	モンテベロの秋	川 名 輝 尚
大黒屋アートギヤラリー賞	好 奇 心	大庄司 つか子
カメラの田中賞	陽 春	小野田 美智子
"	ありの道	安 濃 廣 美
いわきビル設備管理センター株式会社賞	光 跡	吉 田 重 信
常光サービス株式会社賞	秋 彩	根 本 隆 意

1996年3月6日

審査員 中村正也
(日本写真家協会会員)

審査を終えて

26年目という伝統ある「いわき市民美術展」の中に、写真が参入して3年ということです、市美展の中では、まだ若い分野ですが、それだけに強烈な主張が漲っているようにも感じられました。

この市美展の作品傾向には、他の県展や市展には見られない特質があります。それは、オーソドックスな写真表現と、現代美術から派生したコンセプチュアルな作品が展示されているという点であります。

前者は、風景とかスナップとかいうように、いわゆるアマチュア写真家の目指すオーソドックスな作品の方向です。これは、美しい風景を捉える。人間の生き様を記録する。というようにカメラを通して、何かを掴む、何かを記録するというような発想にもとづくもの。

後者は、表現行為そのものを、自分の意識の中で練り直してみるというような発想で、作られた作品。写真という機能を利用して、自分の認識を探り確認するような、抽象的な「発想」で創られた作品です。

以上、いささか極端な分類をしましたが、これらの作品群が、拮抗しているように感じられる点が、いわき市民美術展写真部門の特質だと認識しただいです。

さて入賞作品について、少し触れておきましょう。市長賞「浮漂Ⅲ」薄宗康さんの作品は、ポスタリゼーション、デジタル出力、あるいは着色という技術を用いて、写真に色を加え、異次元空間を生み出して成功しました。4枚の作品に乾いたトーンがあり、その質感が現代社会を感じさせてくれます。市議会議長賞「金毘羅祭りの日(1952年2月)」石川聰さんの作品は、過去の記録、再生といった写真の本質にせまる内容です。1952年という昔の撮影ですが、技術的にも的確で、往時の状況が見事に伝わってきます。教育長賞「幻想」荻野保夫さんの滝の作品は、水と濡れた岩という写真でしか表現できない素材を見事に美しく捉えた作品です。

また、佳作作品の中にも「イヴの食べた黄金のリンゴ」鈴木紅さんや「眼-eye(6年3組37人)」中澤美紀子さんなど、意欲的な作品も多く見られた点も記しておきます。

最後に全体的な作品傾向について、感じた点を少し記しておきます。

- ① 黒マットで表装された作品が多い——黒い枠は少しイメージが重くなつて、損をしている作品も多い。白マットの作品がもっとあってよい。
- ② 額と写真とマットの巾の分量について——もう少し調和のとれたバランスでレイアウトをして欲しい。額も薄手のすっきりしたものの方が、写真作品には合うと思います。
- ③ ノートリミング、フルフレームが美しいという発想を徹底する——35ミリの画面比率2:3はバランスがとれていて美しい。これを印画紙比率に変更して(トリミング)伸ばしている点が問題である。自分がファインダーで観た光景を大切にして欲しいということです。

1997年3月5日

審査員 竹内 敏信
(日本写真家協会会員)

第26回

写真の部 入賞者

賞 名	題 名	氏 名	住 所
いわき市長賞	浮漂Ⅲ	薄 宗 康	
いわき市議会議長賞	金毘羅祭りの日 (1952年2月)	石 川 聰	
いわき市教育委員会 教 育 長 賞	幻 想	荻 野 保 夫	
《佳 作》			
いわき商工会議所 会 頭 賞	冬 の 海 辺	中 根 長 久	
いわき市文化団体 連絡協議会会長賞	イヴの食べた黄金のリンゴ	鈴 木 紅	
福島県報徳社賞	明 神 池	緑 川 貴 之	
美術館友の会賞	命	芳 賀 順 子	
いわき市観光協会賞	編髪に、サハラの風が吹く。	福 地 貞 子	
"	露	福 地 紀 男	
いわき市物産振興 連 合 会 賞	眼-eye(6年3組37人)	中 澤 美紀子	
いわき写真師会賞	冬 の 海	大 庄 司 司 子	
有限会社平電子 印 刷 所 賞	発	奮 上 原 久 子	
昭 文 堂 賞	幻	影 坂 本 輝	
シックプラザ賞	散	歩 外 井 美智子	
大 黒 屋 ア ー ト ギ ャ ラ リ ー 賞	大 応 援	浅 川 光 輝	
カ メ ラ の 田 中 賞	真 実、十三歳の秋に	吉 田 精 利	
"	白 い 境 界	渡 辺 啓	
写 真 材 料 商 い わ き 支 部 賞	一 緒 に お い で よ	新 妻 盤 山	
福島フジカラー賞	冷 夏	田 子 光 子	
コニカカラーレンタル い わ き 営 業 所 賞	朝 も や	今 泉 弘	

審査を終えて

全体的に被写体に向けるエネルギーが漠然としてしまっている印象を受けた。“何を撮りたいか”という被写体に対する思いをもう少し感じさせて欲しかった。写真とは、撮った瞬間の思いが過去の時間として永遠に残るもの。それはまた、自分の気持ちを被写体を借りて永遠に残すことでもある。それゆえ、もっと真摯に被写体と対話し、被写体を見続け、エネルギー（気）の強さを作品の上に反映し、感じさせるような作品を見せて欲しかった。組み写真にしても、良い写真だけを組み合わせたから良い作品になるというものではない。それらのもつドラマ性をメリハリをつけて見せることが大切だ。また、写真を見せるための工夫、オリジナル写真の良さをより一層心地よく伝える方法として、写真を入れるフレームや枠、台紙の色、それらの大きさの比率などをもっと研究して欲しいと感じた。

さて、市長賞「どんど祭」は、農耕民族としての我々が先祖より伝える神事的イベントを写した写真だが、強い精神性と格調の高さを感じさせる作品だ。“どんど焼き”的燃え盛る炎の迫力、漆黒の闇と赤い炎、それを取り巻く観客のシルエットとの絶妙なバランス。神秘的であると同時に、この切り取られ焼き付けられた一瞬の静止した時間に、莊厳さすら感じることができる。議長賞「紅の花」は、グラフィカルな処理やトリミングの上手さが光り、見せ方において完成度の高さを感じさせる。教育長賞「ふれあい」は、スナップ写真ながら、実に印象的な瞬間をうまくとらえている。たくさんの手が中央に集まる構図は、目にうるさくなることもなく、暖かさや人の温もりを象徴的に表している。人々の表情も実にすばらしい。佳作の中では、「朋子、18才の秋に」は、大変ホッとする写真として印象に残った。実際に自然体の少女が何げなく座っているその写真には、平和という幸せの時間がたっぷりと写し込められ、私の中でユージン・スミスの代表作「樂園への歩み」と重なって印象深く見えた。また、紅葉と水の流れと反射を扱った写真「落葉多彩」は、その労力に脱帽する労作だ。作者のものを見る目の確かさも感じさせる。難を言えば、レンズの長さの強弱に欠けた点が残念であった。

写真を撮る時には、人間を撮る思いも風景や花を撮る思いも同質であると思っている。私は、被写体に対する思いやり、距離感、そして、被写体から発せられるエネルギーをどうやったらやさしく受け止め、やさしく返せるかということを常に心掛けている。つまり、被写体のもつエネルギーをどれだけストレートに、かつ、緩急をもって「ありがとう」という気持ちで返せるかということである。その思いをテクノロジー（技術）によって増幅させる方法は、勉強すれば身につくものである。写真をやろうという皆さんには、他の人の作品を見たり、技術的なものを勉強したりして、増幅のこつを身につけてもらいたい。また、感性を磨くことも大切である。個々の感性は、生まれ育った環境によっても異なるものだが、より感じること、感動する思いを、たくさんのものをよく見ることで訓練し磨いていって欲しいと思う。

最後に、これから写真に取り組もうとする皆さんに強く希望することは、受賞作品をまねたり、そのモチーフをそのまま使うようなことは絶対やめて欲しいということだ。自分がいったい何に興味をもち、何を表現したいのかをまず最初に探し出すことから始めて欲しい。写真にするということは、時間の粒一刹那を映像化するという、神様でもやらないような傍若無人なことをやろうとしている訳だから、乱暴な言い方をするようだが、「中途半端な気持ちでシャッターは押すな」と言いたい。写真は永遠に残るもの。漠然とシャッターを押してしまった写真は、先々恥ずかしいものだということを、お伝えしておきたい。

1998年3月11日

審査員 一色一成（写真家）

第27回

写真の部 入賞者

賞 名	題 名	氏 名	住 所
いわき市長賞	どんど祭	高橋 勇市	
いわき市議会議長賞	紅の花	野崎 弘文	
いわき市教育委員会 教 育 長 賞	ふれあい	石川 義紀	
《佳 作》			
いわき商工会議所 会頭賞	御代の大仏（いわき）	鈴木 正幸	
いわき市文化団体連絡協議会会長賞	寂 静	原 三男	
福島県報徳社賞	朋子、18才の秋に	吉田 精利	
美術館友の会賞	風 の 唄	柴崎 恒雄	
いわき市観光協会賞	凜 列	杉山 誠子	
"	氷 彩	大平 章	
いわき写真師会賞	炎 の 精	佐藤 佳弘	
有限会社平電子印刷所賞	ファミリー	折原 勢子	
昭文堂賞	渚 の 造形	大竹 幸雄	
カメラの田中賞	高原のファンタジー	丹野 敦之	
"	落葉 多彩	生田目 重市	
福島県写真材料商 いわき支部賞	波 永山 淳		
福島フジカラー賞	朽ちていくころ	緑川 貴之	
"	幻想 尾瀬	大泉 昭芳	
コニカカラーエンタープライズ いわき営業所賞	Another Satellite	アンディー・パートリッジ	
ブックスいわき賞	実 岡田 昭二		

審査を終えて

今回応募された200余点は、すでにあらよりが終わったものかと思えるほど力作ぞろいだった。が、あえて難を言えば、①タイトルにもう一工夫欲しかった。老人を撮って“高齢者”というのはあまりにも主体性がなく、花を撮影して“花”というタイトルをつけるのに等しい。②ピントが甘く手ブレがある。この二点ですばらしい写真が台無しになってしまったものが数点目についた。③絞りが不足している。長焦点レンズを使って開放F値で撮影すれば極めて被写界深度が浅くなり、肝心の目にピントがきていない失敗があった。などなどがあげられるが、逆にピントが甘いというよりアウトフォーカスによって写真を絵画的に見せたものも数点見られたのは面白い傾向で、コンピュータグラフィックとは違った生々しさを感じさせて興味深かった。つまり、にじみやアウトフォーカスというテクニック？はマンネリになりがちなネイチャーフォトに“いわゆる写真”という域を越えた趣がそなわり、「ピントにうるさい上野」と言われている私に、あえてアウトフォーカスのものを選ばせる結果となった。

選考の基準は、ダイナミズム、リズム感、生活感、時代を象徴するショット、造型美、叙情的な構成美、レンズの上手な使い方、などの優れたもので、仕上げの美しさも考慮した。

1999年3月10日

審査員 上野 千鶴子
(日本写真家協会会員、東京都在住)

第28回

写真の部 入賞者

賞 名	題 名	氏 名	住 所
いわき市長賞	風 樹	早坂公男	
いわき市議会議長賞	春 光	石田友子	
いわき市教育委員会教育長賞	若竹のよそおい	福地紀男	
《佳 作》			
いわき商工会議所会頭賞	幻の名峰	中野喜一	
いわき市文化団体連絡協議会会長賞	瞳	村上軍三	
福島県報徳社賞	異空間	片寄正敏	
美術館友の会賞	ホータンの民	高木サダ子	
いわき市観光協会賞	晩秋の池	福地忠一	
"	乱 舞	菅野富士男	
いわき写真師会賞	ねぶた舞う	伏見重良	
有限会社平電子印刷所賞	赤井はな緒	原三男	
昭文堂賞	黄 昏	矢吹恭子	
カメラの田中賞	現代の女	紺野三千郎	
"	朝の息吹	小野田美智子	
福島県写真商業組合いわき支部賞	よろこびの日	浅川光輝	
福島フジカラー賞	春の足音	佐藤隆義	
"	里の夏	蛭田ちず子	
(株)コニカカラーワイマージング賞	失はれて行くもの	小野貞美	
ブックスいわき賞	蜃光暮影 (アクアマリンふくしま)	斎藤眞	

審査所感

全体の作品テーマにバラエティーがあり楽しく拝見した。額装も大変に工夫された物が多く驚かされたが、写真のレベルも全体に高く市民の皆さんかいかにアートを楽しんでおられるかがよく分かった。

いわき市立美術館のコレクションに影響されてか、モダンアート的な作品も多く、市長賞の大内さんの「砂浜のオブジェ」と題した作品は、普段目にする浜辺のなにげない素材のモチーフを弱い斜光で見事に映像化して完成させている。

印画紙もモノクロを選ばれたので重厚な感が出て成功だった。

議長賞の緑川さんの作品も、デッサン紙にプリントされ、新しい写真の方向を見せており。今後もこの傾向の作品制作を迷わず作りつづけて欲しい。人のやらない事にチャレンジする事こそ大切な個性であり、オリジナリティーだと思う。

教育長賞の「Symmetry」と題した25才のいかにも若者らしい大胆な発想の赤い糸にも感心した。この感性こそが今最も大切な物で、今後のクリエイティブワークのポイントだ。

この写真展を1年でも長く続けることで、いわき市の美的文化の向上に役立つ事を願う。美の文化は人の心を癒し、心豊かな町にしてくれる。

平成12年3月8日

審査員 藤井秀樹

(日本写真家協会会員、神奈川県在住)

第29回

写真の部 入賞者

賞名	題名	氏名	住所
いわき市長賞	砂浜のオブジェ	大内勲	金山町
いわき市議会議長賞	無題	緑川貴之	植田町
いわき市教育委員会教育長賞	Symmetry	上遠野真人	郷ヶ丘

《佳作》

いわき商工会議所会頭賞	夢想花	桜井芳実	四倉町
いわき市文化団体連絡協議会会長賞	閑寂	荒川誠一	鹿島町御代
福島県報徳社賞	月柱船	丸山正	内郷内町
美術館友の会賞	Blue Wave	柴田茂	小名浜大原
いわき市観光協会賞	静寂	江尻敏子	平北神谷
"輝	き	鈴木芳子	内郷宮町
いわき写真師会賞	L'OEIL	中澤美紀子	平下平窪
有限会社平電子印刷所賞	しぶき	津田孝良	平下神谷
昭文堂賞	市の鳥「飛躍」	新妻十太郎	久之浜町
カメラの田中賞	雪の降る音 国宝白水阿弥陀堂	野澤功	平
"	丘	大竹幸雄	内郷内町
福島県写真商業組合いわき支部賞	スワンの夢	小野田美智子	双葉郡富岡町大菅
福島フジカラー賞	湖水の朝の静寂	池田時男	内郷高坂町
"	悠久の時空	星光代	平北白土
NHKいわき文化センター賞	からら松	野木道弘	常磐松が台

審査を終えて

今回の審査結果に対して、異論のある方々もたくさんいらっしゃるかと思います。私はよく考えます。良い写真とは、いったいどんなものだろうかと。現在、私が思うところは、写真は基本的には現実に根ざし、そこから出発し、ねばり強く被写体との関係を作ったうえで表現が始まる、ということです。抽象的な表現でも、そこには現実があるのです。そして、そのように表現された写真は、写っている情報と表現を基本にしながら、そこには具体的に写されていないものを強く感じます。つまり、私にとって良い写真とは、きっちり現実を写しながらそこに写っていない“何か”を感じさせてくれるものです。例えば、こぎれいにまとめられた、ただ美しいだけの写真には本物の感動はありません。

市長賞の渡辺さんの「日だまり」と議長賞の上原さんの「絆」。どちらもすばらしい作品だと思います。では、お二人の作品の違いはどこにあるのでしょうか。私は、干された大根と白菜と白い猫のおしりを選びました。中心のモチーフは、幼い子供ですが、この作品に生きる営みを強く感じました。この子のおかれた環境の豊かさとあたたかさを感じたのです。

唐突ですが、頭脳警察というパンクのバンドが以前ありました。そのメンバーのパンタという人の言葉が印象に残っているので記します。彼はいわゆるプロという存在を疑っていました。彼も音楽のプロなのですが、常にマーケットを意識し、売れることが最善という音楽業界に対しての疑いです。「売れることがプロの証しなら、オレはグレーテストアマチュアを目指す」と彼は言ったのです。その後も彼は信念をまげずに音楽活動を続けています。実際はこんな単純ではないでしょうが、皆さんもいわゆる写真業界の動向や流行など気にせず、もっと自分のまわり、人間の営みに目を向けて下さい。そして、写真のもう一つストレートな力強さを基本に自分の表現を追求して下さい。そして、是非、プロにはなれない、グレーテストアマチュアを目指して下さい。今回の審査、私にとっていろいろなことを考えさせられ、非常に勉強になりました。本当にありがとうございました。

2001年3月9日

審査員 鈴木邦弘
(日本写真家協会会員)

第30回

写真の部 入賞者

賞 名	題 名	氏 名	住 所
いわき市長賞	日だまり	渡辺 孝	平泉崎
いわき市議会議長賞	絆	上原久子	内郷内町
いわき市教育委員会教育長賞	落花流文	早坂公男	平赤井
《佳 作》			
いわき商工会議所会頭賞	黄昏	佐藤瞬	平赤井
いわき市文化団体連絡協議会会長賞	怪しげな錨	井戸川則隆	広野町大字下北迫
福島県報徳社賞	残力	斎藤趙一	小名浜野田
美術館友の会賞	祝言	鈴木春吉	小名浜大原
いわき市観光協会賞	遙	山口歎一	錦町
"	見つめる子ら	山口和子	小名浜
いわき写真師会賞	葆光のハーモニー	松本富美雄	勿来町
有限会社平電子印刷所賞	朝のひととき	鷺良一	錦町
昭文堂賞	CRYSTAL SHOWER	大山登	錦町
カメラの田中賞	勇旗	中川秀男	好間町上好間
"	氷肌	鈴木健司	平
福島県写真商業組合いわき支部賞	目覚め	渡辺正男	平下平窪
福島フジカラー賞	晩秋の湖	作山光実	内郷宮町
"	御神桜	高橋国男	内郷高坂町
NHKいわき文化センター賞	なごりの秋	宍戸光則	平下神谷

審査所感

オーソドックスな作品から造形的なもの、アート感覚の強いものなど、バラエティに富んだ作品が集まっていました。入賞した作品は、どれもインパクトのある力強いものでした。

市長賞は、夕景の海岸ですが、波の織り成すおもしろい造形が夕日に照らされ写し出されています。ポイントに四人のサーファーがバランスよく配置されていて、オーソドックスではありますが、無駄がなく、造形的なおもしろさと情緒と生活感とのすべてが備わった作品です。

議長賞は、水面に落ちた葉が全体にバランスよく散らばり、色の配置もバランスよく、松葉が全体を統一して、造形的におもしろい部分をうまく切り取っている作品です。

教育長賞の作品は、溶けて水になった雪を目の回りにつけているあざらしが、たいへん鮮明に写し出されています。あざらしかわいらしさと水の冷たさが表現され、クローズアップであざらしの白い毛皮と黒い目とが印象的に捕らえられている作品です。

佐藤瞬氏の「群像」は、道路の水のしみをとらえて造形的に作品にしたもので、絵画的な雰囲気もありますが、やはり写真でなければ表現できない微妙な水のしみ具合をよく見て、そのしみをひとつのオブジェとして捕らえたところに作者の視点のおもしろさを感じます。

上遠野真人氏の大きな石の作品は、石がライトアップされることによって、赤の部分と影の部分、石の生の部分とがうまく写し出され、真四角の画面のなかにバランスよくおさめられています。パネル全体を入れてひとつの作品という見方をした場合、プリントを小さく真ん中に置くことによって、一段と重みのある作品に仕上がっており、すべてをよく計算して制作された作品です。

2002年2月20日

審査員 沼田早苗
(写真家)

第31回

写真の部 入賞者

賞名	題名	氏名	住所
いわき市長賞	Sunset Beach	鈴木みち子	泉玉露
いわき市議会議長賞	流れ友禅	猪狩亜矢子	泉ヶ丘
いわき市教育委員会教育長賞	円な瞳	渡辺浩徳	平
《佳作》			
いわき商工会議所会頭賞	群像	佐藤瞬	平赤井
いわき市文化団体連絡協議会会長賞	流星航路	上遠野真人	郷ヶ丘
福島県報徳社賞	光・奏でる	伊賀三枝子	平下平窪
美術館友の会賞	おーい、春も近いね	荻野保夫	常磐上湯谷町
いわき市観光協会賞	めざめ	蛭田光	常磐藤原町
"	年月の造形	佐渡谷亞夫	常磐上湯谷町
いわき写真師会賞	冬の日差し	芳賀克男	平馬目
有限会社平電子印刷所賞	御代の大仏	鈴木正幸	平豊間
昭文堂賞	冬霧	阿部彦典	錦町
カメラの田中賞	抱擁	芳賀道子	平
"	風の夕晴れ	鈴木寛	小名浜
福島県写真商業組合いわき支部賞	朝の散歩	舛井美智子	平谷川瀬
福島フジカラー賞	ささやかな幸せ	石川義紀	小名浜
"	行く秋	平山邦夫	好間町下好間
NHKいわき文化センター賞	鳥合	加藤昭太郎	郷ヶ丘